

5期目の町政執行にあたって

置戸町長 井上久男

本日ここに第4回町議会定例会の開会にあたり、5期目の町政に対する私の決意と所信を申し上げ、町議会のみなさんをはじめ、町民のみなさんのご支援とご協力をいただきたいと存じます。

この度の町長選挙におきまして、みなさまの温かいご支援をいただき、無投票当選の栄に浴させていただきました。

5期目の町政を担うことは、誠に光栄であるとともに、その責任の重さに改めて身の引き締まる思いをしております。

私が初めて就任いたしました平成12年（西暦）2000年は、20世紀最後の年でもありました。しかし、高度経済成長の時代が終わり、21世紀への新たな課題として、少子高齢化社会への対応がスタートした時期でもありました。

私は、このことを念頭に、「まちづくりは、みんなの幸せづくり」を基本理念として、まちづくりを進めてまいりましたが、5期目を迎えた今も、一貫して変わることのない私の町政に対する基本姿勢であります。

この16年の間には、図書館（生涯学習情報センター）の建設をはじめ、幼稚園や保育園の統合による認定こども園や子育て支援センターの開設、小学校の統合、中学校の耐震改修、勝山温泉ゆうゆや老人ホームなど公共施設の指定管理制度の導入、また、障がい者支援施設「キッチン木の実」の開設、簡易水道の統合事業や下水道施設の改修などを行い、町民のみなさんが安心・安全に暮らせるまちづくりに努めてまいりました。

また、去年は、開町100周年の節目を町民のみなさんとお祝いできましたことは大きな喜びであり、置戸2世紀への確かな歩みをスタートすることができました。

私は、これからも初心を忘れることなく、「町民みんなの笑顔がかがやく町づくり」を5期目のテーマとし、まちづくりを進めてまいります。

以下、5期目の重点となる事項について申し上げます。

はじめに、「力強い農業と林業をはじめとする産業の振興発展」について であります。

本町の基幹産業である農業は、本年2月に署名が行われた環太平洋経済連携協定（TPP）の動向など厳しい農業環境の中、担い手の育成・確保と農地の集積や有効利用を目的として設立された「農事組合法人勝山グリーンファーム」は、本年度事業が計画どおりスタートいたしました。

新たな生産法人やコントラクター事業の導入に向け、本町農業のモデル事業として大いに期待しております。今後は、新たな農業就業者の養成や、農業分野における6次産業化などの展開も視野に、農業者や農業団体など関係機関と連携を図りながら支援を行ってまいります。

林業関係では、補助制度の活用による町有林の間伐事業や、民有林への「未来につなぐ森づくり推進事業」の支援を継続し、森林整備を推進してまいりました。しかし近年、若年林業労働者の減少から、将来の担い手不足が大きな課題となっております。林業労働者の担い手確保と通年雇用に向けて関係団体との協議を進めてまいります。

オケクラフトの販売部門を担う「一般社団法人おけと森林文化振興協会」は設立して2年目を迎えますが、オケクラフトの認知度をより一層高め、更なる振興発展のため、支援を継続してまい

ります。

商工業の振興策として、空き店舗を活用した新規開業への支援や、店舗、事務所の改修に対する支援制度を創設しましたが、引き続き利用促進に向け制度のPRに努めてまいります。

観光関係では、交流促進センター「勝山温泉ゆうゆ」の改修工事に着手いたします。平成29年度のリニューアルオープンに向け、町民及び町外から利用いただくみなさんに末永く愛され、親しまれる施設となるよう準備を進めてまいります。

次に、「いつまでも住み続けることのできるまちづくり」について申し上げます。

高齢化社会を迎え、介護予防事業や介護サービスの提供には、地域医療体制の充実と、介護、医療機関の連携がますます重要となってまいります。

置戸赤十字病院は、町民が安心して暮らし続けることのできる根幹をなすものであります。今後も介護サービスとの連携強化、

在宅医療体制の推進など、医療環境の充実に向けて、継続して支援をいたします。

特別養護老人ホームは、昭和57年の開設から34年が経過し、施設の老朽化への対応が必要となってまいりました。

今後も安心して利用いただくために、指定管理者である社会福祉協議会と連携を密にして、施設改修やユニット化など、利用者のプライバシーの尊重と家庭的な雰囲気配慮したサービスを提供する施設整備を進めてまいります。

公営住宅については、まちなか団地の建替えを継続するとともに、5年ごとの公営住宅長寿命化計画の見直しにより、町内の住宅事情に即した対応を行ってまいります。

同時に、民間住宅の建設促進や空き家の利活用を図るなど、複合的な住宅政策を進めてまいります。

平成24年度から着手しました簡易水道統合事業は、財源措置の影響から供用開始が予定よりずれ込みますが、拓殖地区三の沢のおいしい水を町内各地域に届けるため、早期完成に向けて工事を進めてまいります。

下水道施設の改修工事は、長寿命化計画に基づき、第一期工事の置戸浄化センターの改修が完了いたしました。引き続き平成29年度までに遠方監視装置の更新を行い、三地区の効率的な維持管理に努めてまいります。

防災関係では、地域防災計画の見直しに伴い、洪水や土砂災害、避難所などを網羅したハザードマップの更新を行い、日常的な防災意識の向上に努めます。また、災害発生時における迅速な避難行動を促すため防災無線のデジタル化を行い、防災体制の強化に努めてまいります。

街路灯のLED化については、年次計画により更新してきましたが、置戸市街地区の道路灯についても、同様にLED化を進めてまいります。

「安心して子育てできる環境づくり」について ですが

少子高齢化が進行する中、本町の出生率は推計よりも若干ではありますが増加の傾向にあります。

子ども・子育て支援制度がスタートし、「置戸町子ども・子育て

支援事業計画」の2年目を迎えました。質の高い幼児期の教育、地域における子ども・子育ての支援を総合的に推進し、地域で安心して子育てができるよう努めてまいります。

また、町独自の支援策として、利用者負担の軽減やこどもセンターどんぐりの安定した運営に向け、支援をしてまいります。

子育て支援として、特別な支援や配慮を要する児童・生徒の放課後支援体制の整備に努め、保護者の就労支援及び子どもの自立に向けて、切れ目のない支援策を実施してまいります。

小学校の統合による校舎の整備と、中学校の耐震補強及び大規模改修により、児童・生徒の教育環境が整いました。

子どもたちの「生きる力」を育むため、義務教育9年間を通し、小中学校の連携・一貫教育を推進し、円滑な接続を図ってまいります。

次に、「ふるさとを愛する人と心を育むまちづくり」についてですが、

食のまちづくり推進事業では、食育・地産地消の取り組みに加え、農産品の加工や付加価値を高めた地域特産品の開発を進めるため、施設整備の検討を進めてまいります。

置戸の歴史を伝える郷土資料と、どま工房に展示、収蔵の秋岡資料は、置戸の貴重な財産であります。

ふるさと銀河線の跡地活用策として、市街地中心部と森林工芸館のゾーンを一体的に捉え、やすらぎとuringおいの空間整備とともに森林工芸館の改修や、郷土資料の展示方法や展示施設のあり方について検討を進めてまいります。

札幌学院大学との地域交流協定を基に、置戸の旧石器文化財を活用した考古学学習を継続し、旧石器学会シンポジウムの誘致や、鶴丸学長より提案の「小さな博物館のあるまちづくり構想」の検討など、今後も大学との連携強化を図ってまいります。

人口減少に歯止めをかけ、都市から地方への移住や地域の活性化を推進するため、地域おこし協力隊の活用に向けた検討を進めております。来年度からの導入を目指し、基幹産業の農業や林業、商業や観光分野など様々な分野での活用が可能ですが、求める人材・活動内容を明確にした上で、募集作業を進めてまいります。

オケクラフトについてですが、優れた後継者を育成するため昨年度より指導体制の見直しを行い、現在、5人の研修生がクラフトマンを目指し研修を続けております。作り手自らが指導に携わる研修体制や、効率的、効果的な指導内容の更なる充実を図ってまいります。

ファミリースポーツセンターについては、本年度、耐震補強及び改修工事を行い、明るく安全で快適なスポーツ施設としてリニューアルいたします。

また、トレーニングルームの拡張とトレーニング機器の更新もを行い、町民の健康づくり、体力づくりの向上に努めてまいります。

以上、就任のごあいさつと、5期目に向けた私の町政に対する所信・施策を申し上げます。

国内外における社会情勢が不透明な中で、わが国では人口減少社会を迎え、小規模自治体の消滅の可能性が提唱されるなど、これからが正に小さな自治体の真価が試される時代であります。

置戸町においても昨年度、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、西暦2040年の人口目標を、2,300人といたしました。

私は、この総合戦略が目指す人口2,300人のまちづくりへの果敢なる挑戦と、第5次置戸町総合計画が目指す「自然を愛し、人にやさしいまちづくり」の集大成に向けて、今後も町政を進めてまいります。

今後も地方自治体を取り巻く環境は、ますます厳しさを増してまいります。健全財政の堅持と効率的な行財政運営を推進し、町民の誰もが笑顔で幸せを実感できるよう町政に取り組んでまいりますので、町議会議員と町民のみなさんの深いご理解とご協力をお願い申し上げます。